

土砂防だけよりの



霧・流れて (愛鷹山)

年頭の御挨拶	2
2012年しずおかの砂防10大ニュース	
土砂災害から人命と地域を守る砂防会議が開催される	3
宮城県の砂防事業等視察	4~5
市町等砂防担当職員研修	6~7
平成24年土砂災害の発生状況	8~9
平成23年度砂防関係事業の代表的な完成箇所	10~11
深層崩壊について	12
グリーンベルト総合学習、出前講座	13
インフォメーション	14~15
募集・お知らせ	16

特集

土砂災害から人命と地域を守る
砂防会議が開催される

宮城県の砂防事業等視察
市町等砂防担当職員研修

総括

平成24年 土砂災害の発生状況

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当支部の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、全国で837件の土砂災害が発生し、残念ながら24名もの方々の尊い命が犠牲となっております。特に、7月の九州北部豪雨では、時間雨量が100ミリを超え、総雨量が800ミリを越える「これまで経験したことがないような大雨」により熊本県、福岡県、大分県の3県で215件の土砂災害が発生し、23名の死者行方不明者が出る激甚な被害をもたらしております。

本県においては、幸いなことに人的被害もなく、土砂災害の発生件数も例年よりも少ない33件でありました。しかしながら、6月の台風4号の暴風雨により13件の土砂災害が発生し、7月3日の梅雨前線豪雨では、牧之原市の静波内山地区で、長さ約50mにも及ぶがけ崩れが発生しました。このがけ崩れでは、県の整備した急傾斜地崩壊防止施設により民家への土砂被害を防止し、現在、災害関連緊急急傾斜地崩壊防止工事により法面对策を進めるなど、早期の災害復旧・安全対策が進められています。地域住民の生命を預かる我々市町長も、土砂災害による被災者が出ないように、国・県と連携し防止施設の整備促進に取り組んでまいりたいと考えております。

静岡県は、県総合計画（平成22～25年度）において「土砂災害による死者数0人」を目指して、ハード対策として土砂災害防止施設の着実な整備を進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報の气象台との共同発表、避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備、土砂災害防止に関する知識の県民への普及など、早期の住民避難を促すソフト施策の充実を図り、総合的な土砂災害対策に取り組んでいるところです。

国においては、昨年9月、深層崩壊の発生跡地密度マップや溪流レベルの危険度調査の結果を公表しました。今後、国の詳細調査の結果を踏まえ、対応を検討することとなりますが、土砂災害への安全・安心に対する各自治体の考え方や取り組みがこれまで以上に重要となってくると思われれます。

近年では、集中豪雨の頻発、連続雨量の記録が更新されるなどの気候変動も見られます。また平成23年に紀伊半島を襲った台風が少し東へそれていたら、本県でもあの様な悲惨な土砂災害が発生してもおかしくない状況でありました。防災に関する情報をいち早く住民に伝えるなど、国・県が進めているソフト施策を早期避難に活用することが、市町の責務として今後ますます重要となってくるでしょう。

今年も「土砂災害による死者数0人」を目指し、砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年も平穏な年でありまますよう祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2012年 しずおかの砂防 10 大ニュース

土砂災害「全国統一防災訓練」を 県内31市町で実施

過去に土砂災害が発生した地区や土砂災害警戒区域を対象に、土砂災害に対する防災意識の高揚と警戒避難体制の強化を図るため、住民の実動避難に主眼を置いた防災訓練が31市町で3,034人の参加により実施されました。



「富士山火山防災対策協議会」が発足

6月8日に、富士山火山噴火に対する防災対策を検討し連携して取り組むため、国、静岡県、山梨県、神奈川県と富士山周辺市町村、関係機関による「富士山火山防災対策検討協議会」が発足しました。



深層崩壊の国の調査結果が公表される

9月に、国による深層崩壊に関する発生跡地密度マップや溪流レベルの相対的な危険度の調査結果が公表されました。

砂防協会会員が宮城県の砂防事業や 震災復興事業を視察

8月23日～25日、原田支部長（袋井市長）以下11名が参加し、宮城県仙台市等の視察や岩沼市、石巻市の市長や幹部職員との意見交換会を行いました。

「土砂災害から人命と地域を守る砂防会議」が開催される

11月20日に、土砂災害から人命と地域を守る砂防会議が砂防会館（東京都千代田区）で開催されました。

全国から801名が参加し、当支部からも8名のご出席をいただきました。会議に先立ち、国土交通省の南哲行砂防部長より「“里山砂防”はおもしろい」と題して特別講演が行われました。

会議は綿貫会長の挨拶に始まり、会員代表者として、長野県大町市の牛越市長と奈良県十津川村の更谷村長による意見発表が行われました。

その後、出席者による意見交換では、貴舟大桑村長（長野県）、笠松上勝町長（徳島県）、武田河南町長（大阪府）、野瀬高浜町長（福井県）、そして本県の菊地伊豆市長から力強い発言があり、最後に山口副会長が砂防会議の「まとめと提言」を発表し、満場一致で採択されました。

会議終了後、事務局により本県選出参議院議員と国土交通省へ平成25年度予算確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。

（社）全国治水砂防協会の提言



土砂災害から人命と地域を守る砂防会議



綿貫会長の挨拶



南砂防部長による特別講演



菊地伊豆市長の発言

静岡県支部の要望

1. 直轄砂防事業の推進

- 富士山砂防事業：富士山の総合的な火山防災対策、大沢川源頭域対策工事
- 安倍川砂防事業：大谷山腹工、トイグチ沢砂防堰堤
- 狩野川砂防事業：市山地区砂防堰堤群、入の洞砂防堰堤改築

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- 由比地区直轄地すべり対策事業

3. 県による土砂災害防止施設（砂防、地すべり対策、急傾斜地崩壊対策）の整備とソフト対策の推進への支援・協力

- 豪雨や南海トラフの巨大地震等に備えた防災施設の緊急的な整備
- 市町が行う警戒避難体制づくりや災害に強いまちづくりの基礎となる、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進
- 国・都道府県・市町が連携し、安全で迅速な避難のための取組の推進



急傾斜施設への津波避難用階段の設置事業の完成

急傾斜地崩壊防止施設への津波避難に利用できる管理用階段の設置を地元要望箇所全てで整備しています。



大内グリーンベルト（静岡市）のNPO法人「森と水辺を育てる会」が静岡県森づくり功労者に表彰される

11月11日、第36回全国育樹祭において、県との協働により大内グリーンベルトで砂防樹林帯の整備を進めている「森と水辺を育てる会」が森づくり功労者に表彰されました。

平成25年度（社）砂防学会「静岡大会」開催決まる

本年5月29日～31日に、「（社）砂防学会通常総会並びに研究発表会『静岡大会』」の開催が決定されました。

平成24年は33件の土砂災害が発生

昨年は、33件の土砂災害が発生しました。砂防課では、内山地区（牧之原市）の災害関連緊急急傾斜事業の他、10箇所国庫や県単事業による災害に対応する事業を実施しています。



南海トラフの巨大地震の被害想定が公表される

8月29日、内閣府から公表されました。人的、物的被害は前回（平成15年9月）と比べほとんどの事象で大きく増加しています。

小山町の災害関連緊急砂防事業が完成

平成22年9月の台風9号による「奥の沢」他3渓流の被災箇所での災害関連緊急砂防事業による砂防堰堤が完成しました。

宮城県 砂防関係事業等視察研修

8月23日(木)から25日(土)に、東日本大震災により、甚大な津波被害の他にも多くの土砂災害が発生した宮城県を視察しました。今回の視察では、土砂災害及び津波被害を受けた宮城県の沿岸部を中心に、被害状況と現在までの復興状況についての現地視察や復旧復興に携わる関係機関との意見交換を行いました。

この視察は、当協会が毎年実施している事業で、今回は被災地の視察とあわせて、被災地の岩沼市長や石巻副市長から被災状況や現在までの復興状況、復興の妨げになっている事象等についての説明を受けました。

東海地震が想定されている静岡県の各市町長にとって、今後の指標ともなり得る大変有意義な情報交換でした。また、仙台の緑ヶ丘地すべり被災箇所やがれき処理場、海岸工事現場等を視察し、東日本大震災により甚大な被害を受けたにも関わらず、着実に復興へ向かっている状況を確認できました。その反面、岩沼市長や石巻副市長、現場事務所の方々からは、復興には長い期間とマンパワーが必要であり、特にマンパワーが不足しているという説明を受け、厳しい職場環境の中で働いていることを痛感する視察でありました。

日程

8月23日(木)

- ・ 仙台駅集合
- ・ ① 仙台土木事務所にて宮城県土木部防災砂防課により、東日本大震災による公共土木施設災害状況等の説明及び意見交換
- ・ ② 緑ヶ丘(地すべり)現場視察
- ・ ③ 岩沼市役所にて岩沼市長により、防災集団移転や復興計画等の概要説明及び意見交換

8月24日(金)

- ・ ④ ガレキ処理場の概要説明及び視察
- ・ ⑤ 石巻市役所にて副市長により、被災状況や防災集団移転等の説明及び意見交換
- ・ ⑥ 仙台河川国道事務所にて東日本大震災への対応についての説明及び意見交換
- ・ ⑦ 関上・北釜地区現場視察

8月25日(土)

- ・ ⑧ 松島観光施設被災地視察

参加市町等

袋井市、伊豆の国市、河津町、松崎町、函南町、川根本町、森町、静岡市、浜松市、伊豆市、下田土木事務所、沼津土木事務所、事務局



松島にて



宮城県仙台土木事務所：東日本大震災による土木施設災害の説明及び意見交換

平成23年度の宮城県の災害査定は7,513件、8,845億円に及びました。これは阪神・淡路大震災や新潟・長野梅雨前線豪雨のあった平成7年の全国の年間災害査定額6,193億円を1県で越えるもので、改めて東日本大震災の被害の大きさを感じました。



宮城県土木部防災砂防課からの説明の様子

宮城県仙台土木事務所：緑ヶ丘(地すべり)現場視察

当該箇所は、昭和54年に地すべり防止区域に指定され、昭和54～55年に地すべり対策事業として、抑止杭、集水井、集水ボーリング工等が実施されました。

東日本大震災により、既存の抑止杭である鋼管杭が約40mm程度変位し、このままでは杭の破壊に至ると判断したため地すべり災害として対策工事を実施しています。



緑ヶ丘(地すべり)現場視察の様子

岩沼市役所：岩沼市における防災集団移転や復興計画等の概要説明

岩沼市では、震災復興計画を策定中であり、被災海岸沿岸の6地区においては高台移転を計画し、海岸沿岸部は公園・農地へと変更する予定です。その公園・農地の一部においては、メモリアルパーク「千年希望の丘」を創設し、津波の力を減衰させる津波よけとして計画しています。また、メモリアルパーク内には震災津波博物館等の整備を予定しているとのことでした。



岩沼市長による説明の様子

石巻市：ガレキ処理場の概要説明及び視察

災害廃棄物処理業務では、被災地から収集した廃棄物を、一次仮置き場へ収集・搬入し、リサイクル可能なものとそれ以外のものに分別しています。分別された廃棄物は、二次仮置き場へ運搬され、焼却処分や埋立て材料等に再分別される仕組みになっています。今回は、粗選別ヤード、二次仮置き場、破碎選別処理ヤード、焼却処理施設等を視察しました。焼却炉はストーカー炉(3基)、ロータリーキルン炉(2基)の5基が稼動中であり、津波による多くの震災ガレキを大規模かつシステムチックに処理する光景が力強く見えました。



ガレキ処理場での視察の様子

石巻市役所：石巻市における震災復興基本計画等の概要説明について

石巻市は、市の面積を岩手県と比較すると約1/25と小さいのですが、地震による全壊戸数は22,357戸と岩手県の20,189戸を凌ぐ被災状況となりました。また、職員数が少ないため、職員一人あたりの担う事務量の割合は非常に大きいものとなっています。震災復興が進まない理由には、職員数が少ないことによるマンパワー不足の他にも「復興」を「復旧」と同時並行で進行させなくてはならないため、なかなか進捗していないことが大きな要因となっている状況がわかりました。



石巻市副市長からの説明の様子

仙台河川国道事務所：仙台河川国道事務所による東日本大震災への対応及び現場視察について

仙台河川国道事務所の東日本大震災発災時の初動～復旧～復興までの流れについて説明されました。名取川河口部の河川堤防高については、災害復旧として被災前の堤防高TP+6.2mまで本復旧を実施した後、堤防改良として計画堤防高TP+7.2mまで整備する計画です。また仙台南部海岸においては、地域の復興計画と整合を図り、概ね5年間でTP+7.2mの海岸堤防を延長約30km整備する計画です。堤防の構造としては、粘り強い海岸堤防を目指し、裏法被覆工の補強を実施し、津波が堤防を越水した場合の浮力に耐えられる構造としていました。



閑上・北釜地区現場視察説明の様子

市町等砂防担当職員研修

11月9日、県内市町の砂防担当職員、土木事務所職員を対象にした砂防関係事業全般の講習及び現場研修を静岡県内で開催し、23名の方にご参加をいただきました。

午前中に現場研修として、①平成23年の台風15号により発生した斜面崩壊に対する桂山沼側災害関連緊急急傾斜地崩壊対策工事現場や②平成23年の台風6号により発生した山腹崩壊に対する鍵ワ沢砂防工事現場を視察しました。

午後からは事務研修として、①土砂災害についての最近の話題・砂防事業について②土砂災害防止法について③土砂災害警戒情報から警戒避難体制について④手作りハザードマップについての4項目を砂防課職員が講師となり講習会を行いました。講演会終了後、意見交換会が和やかな雰囲気の中で開催されました。

参加者の方からは「規模の大きい災害現場を間近で見させていただき、改めて土砂災害の恐ろしさを感じました。」とか「実際の現場を見る事によって、より具体的に内容が理解できました。」などの多くの貴重な意見、感想が寄せられました。

講習会の様子



行程

11月9日(金)

- ① 桂山沼側災害関連緊急急傾斜地崩壊対策工事現場視察
- ② 鍵ワ沢砂防工事現場視察

講習会

- ・土砂災害についての最近の話題・砂防事業について
- ・土砂災害防止法について
- ・土砂災害警戒情報から警戒避難体制について
- ・手作りハザードマップについて

参加市町等

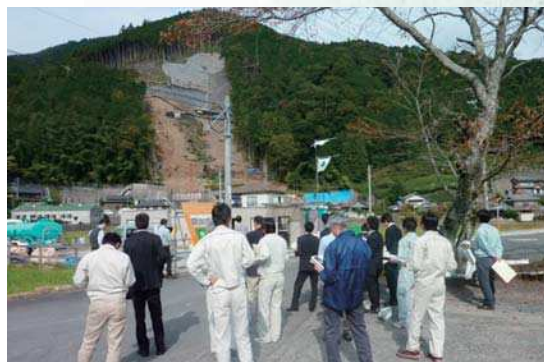
静岡市、浜松市、三島市、伊東市、富士市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、裾野市、湖西市、御前崎市、熱海土木事務所、沼津土木事務所、静岡土木事務所



桂山沼側(静岡市葵区桂山)の 災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業の現場見学

静岡市葵区では平成23年9月の台風15号により大規模な斜面崩壊が発生したことから、県は再度災害を防止するため、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業により、不安定な土塊等を押さえるため、吹付法枠工や鉄筋挿入工、植生基材吹付工などの急傾斜地崩壊対策施設の整備を実施しています。

現地では、災害の概要や警戒避難体制の整備、斜面对策の施工状況などを見学しました。



桂山沼側の現場見学の様子

鍵ワ沢(静岡市葵区坂本)の砂防事業の現場見学

鍵ワ沢では平成23年7月の台風6号により大規模な山腹崩壊が発生したことから、下流への土砂流出に備え、砂防堰堤の新設を行っています。また、上流域は保安林であったことから、治山事業(林地荒廃防止施設等災害復旧事業)で谷止工の整備も実施しており、砂防事業と治山事業が連携した対策に取り組んでいます。

現地では、災害の概要や砂防堰堤の計画、現場発生土の有効利用を図るソイルセメント工法の作業状況などを見学しました。



鍵ワ沢の現場見学の様子

参加者の声



■御前崎市 建設課 主任 杉山 智洋 様

土砂災害対策については原因が大雨・台風・地震など多岐に渡り、予知が難しく、さらに危険箇所となる対象地が多いため、大変な事業だと感じています。

研修で見学した静岡市の桂山災害急傾斜地工事現場、鍵ワ沢砂防工事現場は規模も大きく、御前崎市の現場しか知らない自分は圧倒されるばかりでした。

中でも桂山の現場は大規模な斜面崩壊にもかかわらず、既存施設の効果により人家への被害が無かったということ現場や写真で見ることができ、大変参考となりました。実際の現場を見て知るといことは、今後の地区説明などにおいて活用できると感じています。

■伊東市 建設課 主査 山田 昌弘 様

午前の現場研修では、静岡市で一昨年7月に発生した鍵ワ沢事業、同じく9月に発生した桂山沼側事業の2箇所の土砂災害現場を見学しました。特に鍵ワ沢事業は、上流部を治山事業、下流部を砂防事業が協調して施工され、また、現場は道路幅員が狭窄であるため、発生土を有効利用した工法を採用した現場で、大変有意義なものとなりました。

また、午後の講義では、近年に発生している土砂災害の傾向並びに取組み等について、特にソフト対策の一環として、

現在、行われている地元住民による手作りハザードマップは、自治体が作成したものより地区毎の細かい点が行き届き、また住民の防災意識の強化に繋がると痛感しました。

土砂災害の発生状況

土砂災害は、降雨や地震などにより突然発生し、尊い生命や貴重な財産を一瞬にして奪い、地域に深刻な被害をもたらします。

土砂災害は全国各地で毎年発生し、過去10年間で平均約1,000件、県内においても年平均約50件も発生しています。

平成24年は、全国で837件、県内で33件の土砂災害が発生し、そのうち台風4号により13件の土砂災害が発生しました。このうち、10件では既設の擁壁等が土砂や倒木を食い止め、人家への被害を未然に防止し、地域の安全に貢献しました。

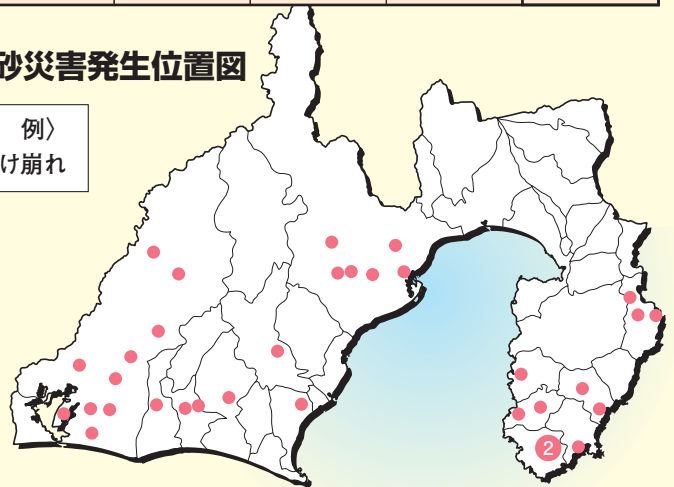
平成24年 県内の土砂災害

種別	発生日と気象状況								計
	4月3日	4月23日	5月2日～5月3日	6月13日	6月19日～6月20日	7月3日	8月14日～8月15日	11月26日	
	豪雨	豪雨	豪雨	—	台風4号	豪雨	豪雨	豪雨	
土石流									0
地すべり									0
がけ崩れ	2	5	4	1	13	1	6	1	33
計	2	5	4	1	13	1	6	1	33



土砂災害発生位置図

〈凡例〉
● がけ崩れ



がけ崩れから人家を守った
急傾斜施設 (浜松市西区入野町)



人家裏のがけ崩れ⇒
(牧之原市静波)



人家裏のがけ崩れ
(南伊豆町青市)



梅雨前線豪雨による土砂災害箇所 災害関連緊急事業の採択

平成24年に県内で発生した33件の土砂災害のうち、災害規模が大きく、次期降雨等により被害が拡大するおそれがある内山急傾斜（牧之原市静波）において、災害関連緊急事業を申請し採択されるなど、災害発生後の迅速な対応をしています。

■平成24年度災害関連緊急事業 実施状況

区分	箇所名	位置	事業費 (百万円)	事業内容	被災原因	採択日
急傾斜	内山	牧之原市静波	51.8	法枠工	梅雨前線豪雨	H24.9.6

■内山(牧之原市静波) 災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業

7月3日から7月4日の梅雨前線豪雨により、牧之原市静波内山で
がけ崩れが発生し、人家が被害を受けました。

このため、次期降雨による斜面の拡大崩壊を防ぐため法枠工などを
緊急的に施工する計画です。



■事業概要

事業費：51.8百万円

事業内容：法枠工 A=990m²、鉄筋挿入工 N=38本、水路工 L=66m



牧之原市静波で発生したがいけ崩れ



崩壊下部から上部を望む



倒木により人家が破損

平成23年度

砂防関係事業の代表的な完成箇所

砂防事業

くりおさわ

●栗尾沢砂防堰堤工 (静岡市葵区足久保奥組地先)



栗尾沢では、砂防堰堤を1基整備し下流域の人家8戸、県道、田畑の保全を図りました。

わたがしまでらさわ

●渡ヶ島寺沢砂防堰堤工 (浜松市天竜区渡ヶ島地先)



渡ヶ島寺沢では、砂防堰堤を1基整備し下流域の人家6戸、市道の保全を図りました。

おくのさわかわ

●奥の沢川砂防堰堤工 (駿東郡小山町上野地先)



小山町では、平成22年9月の豪雨により甚大な被害が生じたため、災害関連緊急砂防事業により4渓流の整備を行いました。奥の沢川では、砂防堰堤を1基整備し、下流域の人家24戸、県道の保全を図りました。

ずんぼかわ

●寸場川砂防堰堤工 (伊豆市小土肥地先)



寸場川では、砂防堰堤を1基整備し下流域の人家5戸、特別養護老人ホームの保全を図りました。

●砂防事業

※平成23年度予算により完成した箇所が対象 ※()内は災害関連砂防事業費

箇所名	位置	事業費(百万円)	事業概要
桃の木沢	賀茂郡河津町川津筏場	210.0	砂防堰堤工 H=14.0m L=51.5m
甚根路川	沼津市内浦重須	300.0	1号砂防堰堤工 H=6.5m L=40.0m、2号砂防堰堤工 H=10.5m L=37.0m 3号砂防堰堤工 H=11.5m L=34.5m
須山滝ノ沢	裾野市須山	259.0	砂防堰堤工 H=11.5m L=80.0m
寸場川	伊豆市小土肥	389.0	砂防堰堤工 H=11.5m L=78.5m
湯船川	駿東郡小山町柳島	292.0(292.0)	砂防堰堤工 H=14.5m L=77.1m
野沢川	駿東郡小山町柳島	460.0(460.0)	野沢川砂防堰堤工 H=11.5m L=75.0m、柳島川砂防堰堤工 H=14.0m L=77.5m
奥の沢川	駿東郡小山町上野	205.0(205.0)	砂防堰堤工 H=10.0m L=65.0m
上野川	駿東郡小山町上野	189.0(189.0)	砂防堰堤工 H=8.5m L=84.0m
栗尾沢	静岡市葵区足久保奥組	332.0	1号砂防堰堤工 H=10.0m L=64.0m、2号砂防堰堤工 H=12.0m L=71.5m
中ノ谷沢右支川	静岡市清水区増	250.0	砂防堰堤工 H=11.0m L=68.0m
小胡挟沢	藤枝市岡部町岡部	275.0	砂防堰堤工 H=11.5m L=41.5m
渡ヶ島寺沢	浜松市天竜区渡ヶ島	259.0	砂防堰堤工 H=9.5m L=32.5m
黄瀬川支川深良川	裾野市深良	65.0	溪流保全工 L=95.0m
猿ヶ沢	静岡市駿河区古宿	67.0	溪流保全工 L=332.7m
藁科川支川坂本川	静岡市葵区坂本	80.0	溪流保全工 L=150.0m
須川支川上野川	駿東郡小山町中日向	89.0	溪流保全工 L=200.0m
黄瀬川支川堤沢	御殿場市沼田	90.0	溪流保全工 L=170.0m
黄瀬川支川佐野川	裾野市須川	40.0	前庭保護工 L=14.0m
修善寺川支川湯舟川	伊豆市湯舟川	114.0	床固工(鋼製スリット) N=1基
下泉河内川	川根本町下泉	55.0	溪流保全工 L=200.0m

急傾斜地崩壊対策事業

● 渡ヶ島久保急傾斜 (浜松市天竜区渡ヶ島地内)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家28戸を保全しました。

● 上船原浜井場急傾斜 (伊豆市上船原地内)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家11戸を保全しました。

● 八幡山急傾斜 (熱海市和田町地内)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家13戸を保全しました。

● 伊久美唐沢口急傾斜 (島田市伊久美地内)



がけ崩れによる災害を未然に防ぐため、対策工事を実施し、人家11戸を保全しました。

● 急傾斜地崩壊対策事業

箇所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
八幡山	熱海市和田町	196.8	20	擁壁工 L=90m
湯船上耕地	駿東郡小山町湯船	108.62	22	擁壁工 L=120m
上船原浜井場	伊豆市上船原	278.2	19	擁壁工 L=285m
上船原沢尻	伊豆市上船原	196	19	擁壁工 L=177m
横瀬	伊豆市土肥	224.124	19	擁壁工 L=157m
諸木沢	静岡市清水区由比入山	171.35	21	擁壁工 L=317m
中河内内田	静岡市清水区中河内	243.8	18	擁壁工 L=299m
伊久美唐沢口	島田市伊久美	180.5	20	擁壁工 L=284m
新野木ヶ谷	御前崎市新野	246	19	擁壁工 L=425m
渡ヶ島久保	浜松市天竜区渡ヶ島	491.1	17	擁壁工 L=584m
口野舟木B	沼津市口野	74.8	21	擁壁工 L=30m
南一色用地	駿東郡長泉町南一色	90.4	19	擁壁工 L=103m 法面工1864㎡
和田島山鼻	静岡市清水区和田島	67.7	21	擁壁工 L=100m
宮島地藏段	榛原郡岡部町宮島	57	21	擁壁工 L=90m
伊達方諏訪	掛川市伊達方	24.5	22	擁壁工 L=73m

地すべり対策事業

● 本村地すべり (浜松市北区引佐町西久留女木地内)



地すべり対策事業を、平成17年度から実施し、人家19戸と指定避難所の保全を図りました。

● 上川原地すべり (掛川市倉真地内)



地すべり対策事業を、平成17年度から実施し、人家29戸と市道及び二級河川の保全を図りました。

● 地すべり対策事業

箇所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
本村	浜松市北区引佐町西久留女木地内	519.0	17	集水井工3基、横ボーリング工4群
上川原	掛川市倉真地内	600.0	17	集水井工1基、横ボーリング工3群

国による深層崩壊の調査結果が公表される

平成23年9月に、国による深層崩壊に関する調査結果が公表されました。これは、過去の深層崩壊が発生した跡地の密度を示した「深層崩壊跡地密度マップ」と溪流レベル（小流域）における調査区域内の相対的な危険度を表示した「溪流レベル評価マップ」で、インターネットでも公表されています。県内では、安倍川と大井川の上流域の「溪流レベル評価マップ」が公表されました。

今後、国はモデル地区において深層崩壊の規模や影響範囲等を推定する手法を検討する詳細調査や大規模土砂移動検知システムの整備を行い、警戒避難のガイドライン等を作成していく予定です。

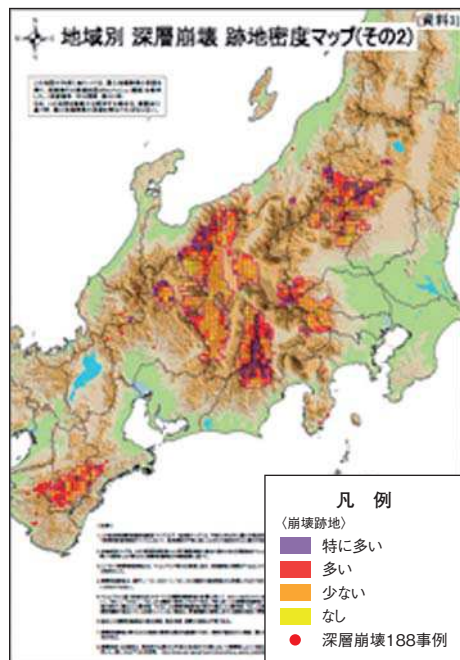


図-1 深層崩壊 跡地密度マップ

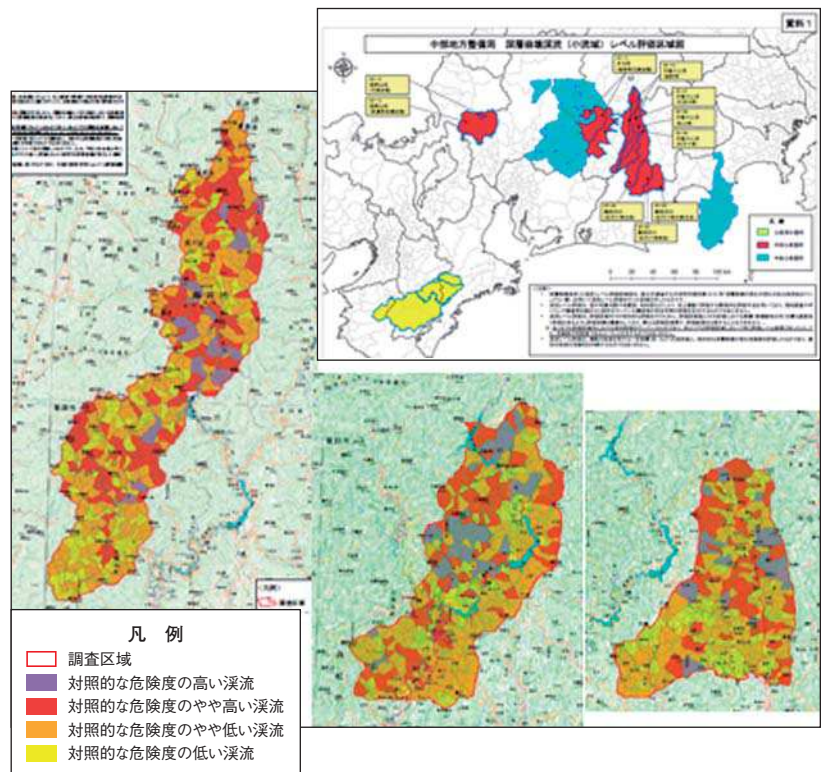
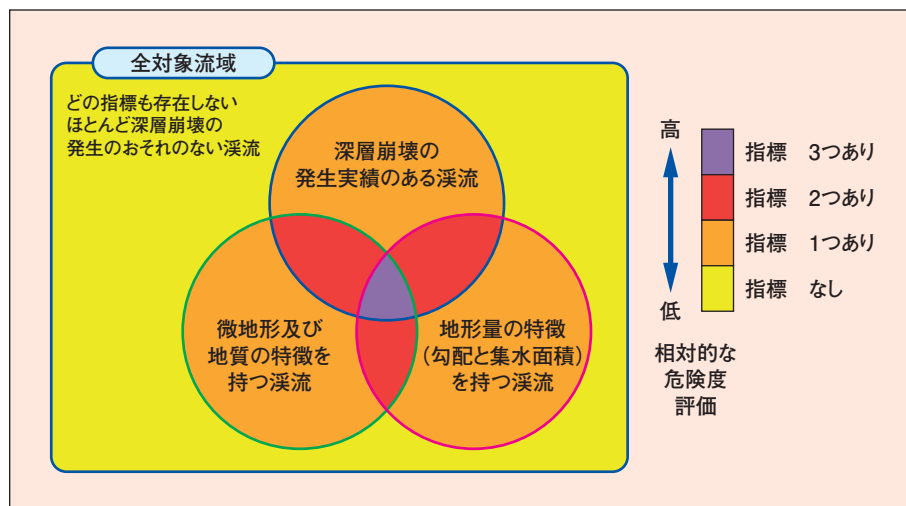


図-2 深層崩壊 溪流レベル評価マップ

溪流レベル評価の評価方法



<評価方法>

危険度は、①深層崩壊の発生実績、②地形構造及び微地形要素、③地形量（勾配と集水面積）の3要素の有無により相対的に評価している。

「土砂災害防止講習会」が開催される

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、日頃からの危険箇所の監視・点検や、地域住民への防災知識の普及を目的とした広報活動等が重要です。

このため、地域住民及び自主防災組織の方々を対象に、地域の自主防災組織の会合等に砂防課や土木事務所の職員による「土砂災害防止講習会」を実施しています。

また、小中学生を対象に、地域の土砂災害防止への関心を高めてもらうことを目的として、小中学校の授業を活用した「土砂災害出前講座」を実施しています。

平成24年度は砂防課ホームページで出前講座について掲載するなど、積極的な呼び掛けを行うことで、県内の小中学校で、土砂災害防止への関心が高まり、出前講座希望数、実施数が例年より多くなりました。受講した生徒からは「土砂災害の怖さを知ることができた」、「早めの避難が大事なので、いざという時に備えたい」等の声が多く寄せられました。

土砂災害防止に関する知識の普及のために今後も積極的な広報活動を行っていききたいと思います。



出前講座の様子



実習の様子(防災マップの見方)



沼津土木事務所による説明

■ H22～H24（12月1日現在）講習会、出前講座実施回数

	H22	H23	H24
講習会実施回数（受講者数）	19回（1,396名）	21回（1,853名）	19回（1,662名）
出前講座実施回数（受講者数）	1回（86名）	0回	8回（344名）

ジオフォーラム2012静岡の開催(主催 静岡県地質調査業協会 他)

9月28日に「ジオフォーラム2012 in 静岡」が静岡市で全国治水砂防協会静岡県支部の協賛により開催されました。今回のフォーラムでは土質試験に関する基礎講座2件と技術発表4件が行われました。また、中央大学研究開発機構の石原研而教授により、「構造物の安全性と維持管理を対象とした地盤調査の意義とその重要性」と題し、地震時の動的な土砂の挙動による現象を東日本大震災、シンガポールや台湾などの諸外国での事例を用いて解説されました。

東海地区土砂災害防止法担当者会議が開催される

10月19日、平成24年度東海地区土砂災害防止法担当者会議が愛知県自治センター（愛知県名古屋市）で開催されました。会議では、はじめに各県の取り組み状況について紹介し、その後各県から提案された議題について討議しました。討議では区域設定における課題や区域指定後の特定開発行為に関する課題が議論の中心となりました。活発な意見交換により各県のおかれている状況や方針等を把握することができ、有意義な会議となりました。

平成24年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

10月26日、平成24年度東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が三重県奥伊勢フォレストピア（大台町）で開催されました。合同会議には、国土交通省水管理・国土保全局の南哲行砂防部長と全国治水砂防協会の岡本正男理事長を来賓に向かえ、東海地区の各支部長及び砂防課長が出席されました。南砂防部長からは近年の土砂災害の発生とその対応状況などの講話があり、岡本理事長からは昨年の災害からの教訓として警戒避難のあり方などについてのお話がありました。その後、各協会の取組みの参考となるよう、各協会の活動報告がなされました。

事業評価監視委員会の開催

10月29日、平成24年度第3回事業評価監視委員会（第1回：7月30日、第2回：8月28日）が県庁で開催されました。砂防関係事業では、事後評価で砂防事業の「入田川（裾野市）」が審議され、「改善措置の必要性は特に認められない。」との意見がとりまとめられました。また、再評価では急傾斜地崩壊対策事業の「今泉寺東（川根本町）」、「上長尾今市場（川根本町）」の2件が審議され、「いずれも事業を継続するのが相当である」との意見がとりまとめられました。

平成25年度は、再評価で7件（地すべり1件、急傾斜6件）、事後評価で2件（砂防1件、急傾斜1件）が対象となる予定です。

東海地区砂防担当者会議が開催される

10月29・30日、東海4県の砂防担当者会議が岐阜県下呂市を会場に開催されました。各県の担当者のほか、国土交通省からは砂防計画課の長町係員、中部地方整備局地域河川課神野専門官、同課小池係員が出席されました。29日の会議では、各県が抱える技術的な課題や交付金制度の活用事例など活発な意見交換が行われました。また、30日には、八百津町内において平成22年に被災し災害関



災害関連緊急砂防事業にて完成した堰堤(岐阜県八百津町)

連緊急砂防事業にて完成した堰堤や、下呂市内において平成23年に被災し同事業の採択を受け事業実施中である砂防堰堤などを見学しました。

全国地すべりがけ崩れ対策協議会 研究発表大会が開催される

11月1日・2日にかけて、全国地すべりがけ崩れ対策協議会第66回研究発表会が兵庫県神戸市で開催され、本県砂防課職員も聴講に参加しました。国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防課の鈴木課長補佐より「最近の土砂災害と斜面对策事業の動向」と題した講演が行われ、各県の担当者等から災害復旧事例や維持管理の手法等のハード・ソフト対策について13件の発表がありました。いずれの発表についても活発な意見交換が行われました。

東海地区直轄事務所長・砂防担当課長会議が開催される

11月2日、東海地区直轄事務所長・砂防担当課長会議が長野県木曾合同庁舎（木曾町）で開催されました。会議には、国土交通省砂防部砂防計画課今井砂防計画調整官、中部地方整備局河川部小林総合土砂管理官をはじめ東海地区の直轄事務所長と各県砂防担当課長が出席し、深層崩壊に対する取り組み状況と今後の予定や土砂災害を想定した防災訓練の実施事例などについて、活発な意見交換が行われました。

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を開催

平成24年11月15・16日、東海4県の担当者による東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議が三重県で開催されました。15日の会議では、急傾斜・地すべり対策における各県が抱えている疑問等の活発な意見交換が行われ、また16日の現場研修では、急傾斜地崩壊対策事業箇所において、交付金事業に該当しない範囲を効果促進事業で実施した西野地区 急傾斜地崩壊対策事業の現場などを見学し、大変有意義な会議となりました。



西野地区急傾斜地崩壊対策事業（三重県松阪市西野町）

平成24年度 静岡県砂防・治山連絡調整会議が開催される

12月20日、砂防事業と治山事業が連携して効率的に事業を実施するため、砂防・治山連絡調整会議を県庁別館20階で開催しました。

会議には、国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防課、県森林保全課の各関係機関の担当者が出席し、来年度以降予定している箇所の事業調整を行いました。

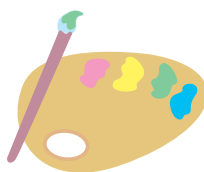


会議の様子

お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募のお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございます。なお、入選発表及び表彰式は平成25年3月を予定しています。



【応募状況】

部 門	小学生	中学生	計
絵 画	54	65	119
作 文	1	13	14
合 計	55	78	133

砂防学会開催のお知らせ

平成25年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会「静岡大会」

砂防学会の通常総会と砂防に関する日頃の研究・調査の成果を発表する研究発表会が静岡市で開催されます。

日 時：平成25年5月29日(水)～31日(金) ※31日は現地研修会（富士山周辺コース、伊豆周辺コース）

会 場：静岡市民文化会館、静岡県総合福祉会館

主 催：(社)砂防学会

問合せ先：静岡県交通基盤部砂防課 TEL(054)221-3041

砂防及び地すべり防止講習会のお知らせ

砂防及び地すべり対策業務を担当する中堅職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。



日 時：平成25年2月21日(木)・22日(金) 会 場：砂防会館別館1階「利根」 参加費：5,000円

主催：全国治水砂防協会 TEL(03)3261-8386 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL(054)221-3044

平成25年の砂防関係の主な行事

●支部活動予定

- 1月 25日 静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会
- 6月 上旬 静岡県支部通常総会(静岡市)
- 上旬 土砂災害に対する全国統一防災訓練
- 1～7日 がけ崩れ防災週間
- 1～30日 土砂災害防止月間
- 上旬 みんなで防ごう土砂災害
(青葉シンボルロード)
- 8月 下旬 市町長等砂防事業県外視察
- 11月 上旬 市町等砂防担当職員研修

●協会本部活動予定

- 2月 21・22日 第53回 砂防及び地すべり防止講習会
(砂防会館)
- 28日 理事会(砂防会館)
- 5月 9日 理事会(砂防会館)
- 21日 代表参与会・参与会(砂防会館)
- 22日 第77回 通常総会(砂防会館)
- 7月 24日 第1回理事・顧問会議(砂防会館)
- 10月 30日 第2回理事・顧問会議(砂防会館)
- 11月 18日 代表参与会・参与会(砂防会館)
- 19日 土砂災害から人命と地域を守る砂防会議
(砂防会館)



【表紙写真】

霧・流れて 〈撮影地：愛鷹山〉
花崎 智さん(沼津市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編 集・後・記

新年あけましておめでとうございます。

昨年も県内で大雨や台風などにより多くの土砂災害が発生しましたが、幸いにも大規模な人的被害にみまわれることはありませんでした。

本年も土砂災害防止に向け、防災情報の提供など、よりよい誌面づくりに努めていきたいと思っております。

年頭に当たり会員の皆様のご多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしくお願ひ致します。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第179号 発行日：平成25年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp